

主日礼拝

2020 年 9 月 20 日

午前 10 時 30 分

前奏 「主はわが羊飼い」 (D.ウッド)

参集 (報告・紹介・予定)

招詞

その日、その時には、と主は言われる。

イスラエルの人々が来る

ユダの人々も共に。

彼らは泣きながら来て

彼らの神、主を尋ね求める。

彼らはシオンへの道を尋ね

顔をそちらに向けて言う。「さあ、行こう」と。

彼らは主に結びつき

永遠の契約が忘れられることはない。

(エレミヤ50:4,5)

頌栄 24 「たたえよ主の民」

たたえよ主のたみ、みつかいとともに
めぐみにあふれるちち子・せいれいを。
アーメン。

リタニ—

司式者：神さま、わたしたちの前に道があります。

みんな：まっすぐな道、曲がった道、
なだらかな道、でこぼこの道。

司式者：神さま、わたしたちの前に道が広がります。

みんな：のぼってゆく道、下^{くだ}ってゆく道、
近道やまわり道。司式者：どんなに辛くても、歩かなければならない
道があります。

みんな：それは、わたしたちのいのちの道。

司式者：「あなたを決して見捨てない」と、
神さまは言われます。みんな：「いつもあなたがたと共にいる」と、
イエスさまは言われます。

司式者：どうぞ、共に歩いてください。

みんな：あなたにつながる、いのちの道を。

一緒に：イエスさまの御名^なによって、アーメン。

祈禱

献金

献金箱が受付に置いてあります
ので、礼拝前にお献げください。

主の祈り

天^{てん}にまします我^{われ}らの父^{ちち}よ、ねがわくは み名^なをあがめさせたまえ。み国^{くに}を来^{きた}らせたまえ。みこころの天^{てん}になるごとく地^ちにもなさせたまえ。我^{われ}らの日用^{にちよう}の糧^{かて}を、今日^{きょう}も与^{あた}えたまえ。我^{われ}らに罪^{つみ}をおかす者^{もの}を我^{われ}らがゆるすごとく、我^{われ}らの罪^{つみ}をもゆるしたまえ。我^{われ}らをこころみにあわせず、悪^{あく}より救^{すく}い出^{いだ}したまえ。国^{くに}とちからと栄^{さか}えとは限^{かぎ}りなくなんじのもの
なればなり。

アーメン。

聖書 ヨハネによる福音書 10:1~6

新約(新共同訳) P186

「はっきり言っておく。羊の囲いに入るのに、門を通らないでほかの所を乗り越えて来る者は、盗人であり、強盗である。門から入る者が羊飼いである。門番は羊飼いには門を開き、羊はその声を聞き分ける。羊飼いは自分の羊の名を呼んで連れ出す。自分の羊をすべて連れ出すと、先頭に立って行く。羊はその声を知っているのだから、ついて行く。しかし、ほかの者には決してついて行かず、逃げ去る。ほかの者たちの声を知らないからである。」イエスは、このたとえをファリサイ派の人々に話されたが、彼らはその話が何のことか分からなかった。

賛美 120 「主はわがかいぬし」

The Lord's my shepherd, I'll not want
版 : William Whittingham, 1524-1579

CRIMOND
曲 : Jessie S. Irvine, 1836-1887

1 主 は わ が ぬ し
2 あ お わ が の は ら に
3 主 は わ が の は ら に
4 死 の か が の た た に
5 め ぐ み に あ る ふ る
6 い の ち あ る か ん ぎ り

わ れ は ひ つ じ、 み め - ぐ み に
わ れ を ふ さ せ、 いた だ こ - い の み
生 き か と き せ、 せ、 た だ し - き お
ゆ く - と え き せ、 た だ し - き お
う た - と げ ひ つ き、 あ ぶ - ら い そ
さ ち - は つ き、 主 の - い え

よ - り て す べ - て た い れ た り。
ず - べ と とも ち - な び い き た も う。
ち - へ と み ち - な び い き た も う。
そ - れ と 主 と が - も こ に う す べ
わ - れ ほ と わ - に す ま わ ん。

説教 「イエスさまが連れ出してくれる」

賛美 459 「飼い主が主よ」

Savior, like a shepherd lead us
詞 : Dorothy A. Thrupp, 1779-1847

BRADBURY (SHEPHERD)
曲 : William B. Bradbury, 1816-1868

か い ぬ し わ が 主 - よ - ま よ う わ れ ら を

わ か く さ の の ベ - に - と も な い た ま え。

わ れ ら を ま も り て や し な い た ま え、

わ れ ら は 主 の も の、主 の む れ な れ ば。

1. 飼い主が主よ、まよう我らを
若草の野べに ともないたまえ。
我らを守りて 養いたまえ、
我らは主のもの、主の群れなれば。
2. 良き友となりて 常にみちびき、
まよわば尋ねて つれ帰りませ。
我らの祈りを 受け入れたまえ、
我らは主のもの、ただ主に頼る。
3. 救しのみちかい、救いのめくみ、
きよむる力は ただ主にぞある。
我らをあがない 生命をたまう、
我らは主のもの、主に在りて生く。
4. 主よ、いつくしみを 我らに満たし、
今よりみむねを なさしめたまえ。
我らをあわれむ み恵みふかし、
我らは主のもの、ただ主を愛す。

派遣

司式者 主は言われます。
「わたしは誰を遣わすべきか。」
会衆 わたしがここにあります。
わたしを遣わして下さい。

祝祷

アーメン

アーメン アーメン アーメン

後奏 「ああ嬉し我が身も主のものとなりけり」
(R.ヘッブル)

司式 山野上 純子
説教 向井 希夫牧師
奏楽 福原 之織

※お立ちになるのが困難な方は、
座ったままで礼拝をお守り下さい。
※賛美歌の最後には、基本的に「アーメン」を付けません。